様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 23 年 5 月 27 日現在

機関番号：37111
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2008～2010
課題番号：20510259
研究課題名（和文）　クィア・ヒストリーによる西洋史再考

研究課題名（英文）　Rethinking European history under Queer History

研究代表者
星乃　治彦（HOSHINO　HARUHIKO）
福岡大学・人文学部・教授
研究者番号：00219172

研究成果の概要（和文）：近代ドイツを事例に、軍隊―宮廷内における「男性」性の歴史的構築過程および「同性愛の歴史的機能」の分析を進めた結果、ヘテロ・セクシュアルによって解釈されてきたと考えられる歴史を別の観点から考察することの重要性が明らかとなった。また、*Who's Who in Gay and Lesbian History, London, 2001* の翻訳作業を進めるなかで、古代、中世、近世、近代、現代といった時代による特質を抽出した。さらに、クィア学会や性同一性障害学会等との交流を通じて、歴史学のみならず社会学や臨床心理学、精神医学などセクシュアリティに関する隣接学問からの知見を得ることで、そもそも「同性愛」「同性愛者」が問題なのではなく、それを作り上げていく社会や政治を解明することの必要性も浮き彫りになった。こうした作業をもとに、歴史の中で「性」＝関係性（あるいは差別の体系）がいかにして作り上げられたのかを、西洋史全体の中に位置づけることが可能となった。

研究成果の概要（英文）：I analyzed the constructed process of 'masculinity' and the historical function of 'homosexuality' in Modern German history. Analysis showed that it was important that the history interpreted by heterosexual was rethought with other points of view.Then, Transtalating the book, *Who's Who in Gay and Lesbian History, London, 2001* from English into Japanese, I found that the charactaristics reflected each times—ancient times, medieval age, modern times. Then, The Japan Association for Queer Studies(JAQS) and Japanese Society of Gender Identity Disorder which I participated in 2009 showed me the new knowladge from not only history but also sociology, clinical psychology and psychiatry about sexuality. As a result, it was cleared that we should analyze the social and potlitical process which constructed 'homosexuality'. 'Homosexuality' itself didn't have a problem.On the basis of these researches, I could understand how was 'sexuality', in other words, 'relationship' or 'systems of discrimination' constructed in the context of European histroy.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2008 年度	800,000	240,000	1,040,000
2009 年度	2,100,000	630,000	2,730,000
2010 年度	600,000	180,000	780,000
総　計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：複合新領域
科研費の分科・細目：ジェンダー・ジェンダー
キーワード：女性学・男性学･クィア・スタディーズ

１．研究開始当初の背景

申請者は、『ジェンダーの西洋史』法律文

化社（1998 年 12 月）98－127 頁によって、女性史を中心としたジェンダー史を手がけはじめたことを契機に、当時国内において注目されていなかった男性史研究を開始させた。その成果として、Thomas, Kühne, hrsg.(1996) *Männergeschichte-Geschlechtergeschichte*, Campas, München を翻訳し、柏書房から『男の歴史』（トーマス・キューネ編、星乃治彦訳）として 1997 年に公刊した。その後、申請者が代表を務めた科学研究費補助金基盤研究（B)「戦間期ヨーロッパにおける危機の社会的・文化的位相：ヴァイマル・モデルネと現代」（平成 14～16 年）を進めるなかで、ホモセクシュアリティを含む解放理論の歴史的位置を考察する機会を得たことにより、「ナチズムとホモセクシュアリティ」という総論的研究を発表してきた（日本西洋史学会シンポジウム「革命・公共圏・性文化」(2003 年 5 月)、『思想』955 号（2003 年 11 月、85～103 頁))。その後申請者は、ホモセクシュアリティの問題をドイツ現代史の歴史的過程の中の各論へと展開させていくと同時に、「座談会　マスキュリニティ/男性性を歴史的に考えること」『現代のエスプリ』446 号（2004 年 9 月、5～24 頁）への参加を契機に、ジェンダー論やアメリカ社会学などの社会構築主義的方法論を摂取した。拙著『男たちの帝国』(岩波書店、2006 年）はその成果であり、方法論としての「クィア・ヒストリー」を提起するにいたった。

２．研究の目的

本研究は、従来のジェンダー史を展開させセクシュアリティ的観点を導入した歴史像＝クィア・ヒストリーの構築を目指すものである。とくに、ここでは「ホモセクシュアル」概念の形成過程を考察しながら、ヘテロ・セクシュアルによって解釈されてきた歴史を別の観点から考察することを通して新たな歴史像の構築を目指すものである。例えば、ドイツ史の中の「ホモセクシュアル」を問題とするのであれば、「ホモセクシュアル」がアプリオリに本質主義的に存在するのではなく歴史的プロセスを経る中で「形成されてきた」という立場をとる社会構築主義的観点に立てば、問題は同性愛者にあるのではなく、社会構造そのものの中に求められなければならない。そこで「ホモセクシュアリティ」がいかに作られてきたのかという歴史的過程を追う必要がある。

このように、歴史の中でいかに「性」＝関係性が作り上げられ、あるいは差別の体系が作り上げていくのかを、これまで解明してきたドイツ現代史という枠組みからさらに枠組み自体を広め、西洋の歴史を見る中で「クィア・ヒストリー」を明らかにしていきたい。このようにセクシュアリティを西洋史全体のなかに位置づけることで、古代、中世、近世、近代、現代といった時代による特質が抽出されよう。そこから派生する「家族」や「友情」といった様々な関係性や「公」「私」の問題の歴史が浮かび上がってくるであろう。

３．研究の方法

本研究は、（１）基本的資料の蒐集とデータベースの作成、（２）国内アドヴァイザーとの交流、（３）海外における資料集とネットワーク構築、（４）適宜発信準備を４本柱として作業を進めた。

（１）基本的資料の蒐集とデータベースの作成

現状では、セクシュアリティに関係した文献は散在しているにすぎず体系的蒐集を欠

いている。極東書店のコレクション「セクシュアリティ」を中心に国内外の基本文献を、体系的にかつ歴史学、社会学など幅広い分野にわたり横断的に蒐集するとともに、いくつかの基本的文献を付け加えた。それとともに、これら基本文献をベースにしたセクシュアリティに関するデータベースを作成し、全国的な使用に供与を目指した。

（2）国内アドヴァイザーとの交流

アドヴァイザーとして、弓削尚子氏（早稲田大学・西洋ジェンダー史)、長谷川まゆ帆氏（東京大学・文化人類学)、石田勇治氏（東京大学・ドイツ現代史)、成田龍一（日本女子大・日本現代史、ジェンダー論)、加藤千香子（横浜国大・日本史、ジェンダー史)。ほか、研究代表者が所属する福岡大学内のワンキャンパス型総合大学の特性を活かし、トランスジェンダーを専門とする西村良二氏（福岡大学病院・精神医学）や皿田洋子（福岡大学・臨床心理学）などの学内専門家との交流も進めた。

（3）海外における資料収集とネットワーク構築

Axel Schild ハンブルグ大学教授・現代史研究所所長は現代ドイツ現代史の中心的人物の１人だが、既知の彼との連携を深め、そこを起点としてこのテーマに関するネットワークを作りを進めた。それとともに、ベルリン国立図書館、連邦文書館における資料収集を進めるにあたり、ベルリンを中心としたドイツへ赴いた。

（4）適宜発信等

ホームページによる基本文献の公開、データベースの公開のほか、研究成果の発信の場として、日本西洋史学会、ジェンダー史学会、九州歴史科学研究会等を活用した。

４．研究成果

（1）2008 年

初年度である平成 20 年度は、その準備段階という位置づけのもとで、①基本的資料の収集およびデータベースの作成、②国内アドヴァイザーとの交流を行った。①については、近年の欧米圏におけるクィア、セクシュアリティに関する文献リストを作成し、その成果を、新たに開設したホームページにて公開している。②については、ジェンダーに関する研究会（於西南学院大学、2009 年 2 月 14 日）や性同一性障害学会（於長崎大学、2 月 15 日）への参加・交流を通じて、女性史や性同一性障害に関する最新情報の把握・整理に努めた。特に性同一性障害については、そのリサーチを進めるなかで、「男」「女」の性別理解が現在の教育言説の隅々まで行き渡っているという新しい知見を得た。

他の実績としては、共著として２月に刊行された『ドイツ近現代ジェンダー史入門』において「ナショナリズム・男性性」を執筆し、「男性」性が軍隊と宮廷という二つの空間の中で、いかに歴史的に構築され、クィア理論の一つの着目点であるホモソーシャルな関係がどう展開したのかを論じた。

これらの研究を通して、「ホモセクシュアリティ」概念の形成過程を考察しながら、ヘテロ・セクシュアルによって解釈されてきたと考えられる歴史を別の観点から考察することを通して新たな歴史像の構築を目指すことが可能となった。

（2）2009 年度

平成 21 年度は、①基本的資料の収集およびデータベースの整理、②国内アドヴァイザーとの交流、③海外におけるネットワーク構

築、④適宜情報発信を推進した。本年は、セクシュアリティ関係コレクションをほぼすべて入手し、*Who's Who in Gay and Lesbian History, London, 2001* の翻訳作業もすすめた。またドイツ（ベルリン）への資料収集およびドイツ研究者との意見交換を行った。

また、京都大学で開催された「感情学の展望」(2009 年 7 月 11 日）に討論者として参加し、「感情」という理性的領域ではない側面が歴史や政治にもたらす影響をも学問として俎上にあげる必要性を認識するに至った。

クィア学会（2009 年 10 月 17 日）では、現在日本においてゲイ、レズビアン、バイ、トランスジェンダー／セクシュアルといった特定のセクシュアリティとほぼ同義語で使われることが多い「クィア」の複雑な歴史的・文化的文脈に注目し、「クィア」の属性が自明視されることの問題点や特定のアイデンティティに還元されない「クィア」の可能性に焦点をあてるというアプローチから示唆を得た。情報発信については、熊本県立大学文学部フォーラム (2009 年 11 月 21 日開催）にて報告した内容をもとに、同大学文学部紀要『文彩』(6 号）に「つくられる「おんな」の身体、「おとこ」の身体－その歴史的形成過程」を執筆した。

以上の研究活動をもとに、セクシュアリティを西洋史全体のなかに位置づけることで、古代、中世、近世、近代、現代といった時代による特質が抽出された。また、そこから「家族」や「友情」といった様々な関係性や「公」「私」の問題の歴史も浮かび上がった。

（３）2010年度

最終年度にあたる平成22年度は、基本的資料の収集・整理、国内アドヴァイザーとの交流、適宜発信を進めると同時に、総合的なまとめの作業を開始させた。資料収集・整理については、これまで収集してきたクィアおよびセクシュアリティに関する文献の翻訳作業を進めてきた。国内アドバイザーとの交流については、ジェンダーという横断的学際領域であるため、歴史学だけではなく、社会学、人類学などの隣接学問の専門家との交流を進めるために、こうした分野での一線におられる研究者との交流を深めた。

特に、シンポジウム「占領期・ポスト占領期の視聴覚メディアと受容」（2011年3月5日・東京大学）において、米陸軍・国務省作成のプロパガンダ映画「戦争花嫁」の日本での上映を通じて、「アメリカ」を模範とする家庭のあり方（＝女性のあり方）が喧伝され、日本社会のなかで「アメリカ」が受容されていくツールとなったという知見を得た。アメリカに引きつけた業績としては、1970年代にサンフランシスコ市議会議員となったハーヴェイ・ミルク氏を題材とした「1970年代のアメリカのジェンダー状況」と題する講演（2010年12月20日・明治大学）を行った。2011年1月に刊行された『権力と身体』（明石書店）では「同性愛の歴史的機能」を執筆し、「同性愛」「同性愛者」が問題なのではなく、それを作り上げていく社会や政治を解明することの必要性を強調した。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１件）

①星乃治彦、つくられる「おんな」の身体、「おとこ」の身体－その歴史的形成過程、文彩、6 号、査読有、2010、pp.48-52.

〔学会発表〕(計 3 件)

①星乃治彦、1970 年代のアメリカのジェンダー状況、特別講義、2010 年 12 月 20 日、明治大学

②星乃治彦、つくられる「おんな」の身体、「おとこ」の身体－その歴史的形成過程、熊本県立大学平成 21 年度文学部フォーラム「ことばとからだ」2009 年 11 月 21 日、熊本県立大学

③星乃治彦、「感情学の展望」、コメンテイターとして報告、2009 年 7 月 11 日、京都大学

〔図書〕(計 2 件)

①星乃治彦、同性愛の歴史的機能、権力と身体（服藤早苗、三成美保編)、明石書店、2011、pp42-60.

②星乃治彦「国民づくり・男づくりと軍隊・宮廷―ホモソーシャルの展開」姫岡とし子・川越修編『ドイツ近現代史ジェンダー史入門』青木書店、2009、pp.263-280.

〔産業財産権〕
○出願状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
http://www.cis.fukuoka-u.ac.jp/~hoshisemi/Project/qeer.html

６．研究組織
(1)研究代表者
星乃　治彦（HOSHINO　HARUHIKO）
福岡大学・人文学部・教授
研究者番号：00219172

(2)研究分担者
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：